

スミフェロン 注バイアル 300 万 IU
スミフェロン 注 DS300 万 IU
スミフェロン 注 DS600 万 IU

【この薬は？】

販売名	スミフェロン注 バイアル 300 万 IU	スミフェロン注 DS300 万 IU	スミフェロン注 DS600 万 IU
	Sumiferon		
一般名	インターフェロン アルファ (NAMALWA) Interferon Alfa (NAMALWA)		
含有量	1 バイアル中	1 シリンジ中	
	300 万単位	300 万単位	600 万単位

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、インターフェロンアルファ製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスなどに抗ウイルス作用を示し、肝機能を改善します。また、体の免疫力を高め、がん細胞が増えるのを抑えたり、がん細胞を死滅させるのを助けたりする働きがあります。

- ・次の目的で自己注射のために処方されます。

[スミフェロン注バイアル 300 万 IU・注 DS300 万 IU・注 DS600 万 IU]

- 腎癌、多発性骨髄腫、ヘアリー細胞白血病
- 慢性骨髄性白血病
- HB_e抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性^{*1}のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善
- C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善（血中HCV^{*2} RNA量が高い場合を除く）
- C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善（セログループ1の血中HCV^{*2} RNA量が高い場合を除く）

[スミフェロン注バイアル 300 万 IU・注 DS300 万 IU]

- HTLV-I^{*3}脊髄症（HAM）

この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

[スミフェロン注バイアル 300 万 IU・注 DS300 万 IU・注 DS600 万 IU]

- 腎癌、多発性骨髄腫、ヘアリー細胞白血病
- 慢性骨髄性白血病
- HB_e抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性^{*1}のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善
- C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善（血中HCV^{*2} RNA量が高い場合を除く）
- C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善（セログループ1の血中HCV^{*2} RNA量が高い場合を除く）

[スミフェロン注バイアル 300 万 IU・注 DS300 万 IU]

- 亜急性硬化性全脳炎におけるイノシン プラノベクスとの併用による臨床症状の進展抑制
- HTLV-I^{*3}脊髄症（HAM）

*1 HB_e抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性：活動性が高い状態

*2 HCV：C型肝炎ウイルス

*3 HTLV-I：ヒト成人T細胞性白血病ウイルスI型

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬により間質性肺炎、自殺企図（自殺を企てること）があらわれることがありますのでこれらの副作用の発現の可能性について十分理解できるまで説明を受けてください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にスミフェロンに含まれる成分または他のインターフェロン製剤で過敏な反応を経験したことがある人
 - ・過去にワクチンなどの生物学的製剤で過敏な反応を経験したことがある人
 - ・小柴胡湯（しょうさいこうとう）を飲んでいいる人
 - ・自己免疫性肝炎の人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・アレルギー素因がある人
- ・心臓に障害がある人または過去に心臓に障害があった人
- ・肝臓または腎臓に重篤な障害がある人
- ・高血圧の人
- ・高度の白血球減少または血小板減少がある人
- ・中枢・精神神経障害がある人または過去に中枢・精神神経障害があった人
- ・糖尿病の人または過去に糖尿病になったことがある人、血縁に糖尿病になった人がいる人、耐糖能障害のある人
- ・自己免疫疾患の人またはその素因がある人
- ・喘息がある人または過去に喘息があった人
- ・過去に間質性肺炎になったことがある人
- ・高齢の人

○C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善やC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善に使用する場合、この薬の使用前に血液の検査などが行われます。

○この薬を使用したときに過敏な反応が出ないかを予測するために、プリック試験が行われることがあります。

○亜急性硬化性全脳炎にイノシンプラノベクスと併用して使用する場合、この薬の効果が必ずしも十分に検討されていないことも含めて、この薬の有効性や副作用について、患者さんや家族の方は、十分に理解できるまで説明を受けてください。説明に同意をした場合に使用が開始されます。

○この薬には併用してはいけない薬[小柴胡湯(しょうさいこう)]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は、注射薬です。

●使用量および回数

使用量および回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、使用量および回数は、次のとおりです。

適応症	1日量	使用方法
腎癌、多発性骨髄腫、 ヘアリー細胞白血病、 慢性骨髄性白血病、 HB e抗原陽性でかつDNA ポリメラーゼ陽性のB型 慢性活動性肝炎のウイルス 血症の改善	300万～600万単位	成人には1日1回、皮下 または筋肉内に注射し ます。
C型慢性肝炎における ウイルス血症の改善	300万～900万単位	成人には1日1回、連日 または週3回、皮下また は筋肉内に注射します。

適応症	1日量	使用方法
C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	使用開始2週間まで 600万単位	成人には1日1回、連日、皮下または筋肉内に注射します。
	2週間以降 300万～600万単位	成人には1日1回、週3回、皮下または筋肉内に注射します。
HTLV-I 脊髄症 (HAM)	300万単位	成人には、1日1回、皮下または筋肉内に注射します。
亜急性硬化性全脳炎におけるイノシン プラノベクスとの併用による臨床症状の進展抑制	100万～300万単位	1日1回、週1～3回、髄腔内（脳室内を含む）に注射します。

- ・この薬をHB e抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善に使用する場合、4週間の使用をめやすに、その後の継続については、効果と副作用の程度をみながら慎重に決められます。
- ・この薬をC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善に使用して、12週で効果が認められない場合には、使用が中止されます。
- ・この薬を亜急性硬化性全脳炎におけるイノシン プラノベクスとの併用による臨床症状の進展抑制に使用する場合、6ヶ月の使用をめやすに、その後の継続については、効果と副作用の程度をみながら慎重に決められます。

●どのように使用するか？

自己注射の場合、投与量、注射方法は医師の指示にしたがってください。

- ・くわしくは、巻末の使用方法を参照してください。
- ・濁っているものは使用しないでください。
- ・スミフェロン注 DS300万IU、注 DS600万IUを使用する場合は、ゴムキャップを外し、添付されている注射針を取り付けて注射してください。
- ・使用後の残液は確実に捨ててください。
- ・使用後の針および注射器は、そのまま容器などに入れて子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に使用しないでください。

気がついた時に1回分を注射してください。ただし、1日1回を超えて使用しないでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬をC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善に使用する場合、この薬の使用初期から白血球減少（発熱、のどの痛み）、血小板減少（歯ぐきの出血、鼻血など）などがあらわれるおそれがあるので、使用開始から2週間は医師の十分な管理のもとで使用され、入院することがあります。
- ・骨髄機能抑制（出血しやすい、あおあざができる、からだがだるいなど）、肝

機能障害があらわれることがあるので、定期的に検査が行われます。

- ・C型代償性肝硬変で使用する場合、使用を始めて2週間の連日使用する間は2～4日に1回、以後2週間に1回、その後は4週間ごとに1回をめやすに、血液検査が行われます。
- ・間質性肺炎があらわれることがあるので、発熱、から咳、息苦しいなどの呼吸器症状の異常があらわれた場合には、胸部 X 線などの検査が行われます。特に過去に間質性肺炎になったことのある人に使用する場合は、定期的に聴診、胸部 X 線などの検査が行われます。
- ・この薬により、抑うつ気分になったり、死んでしまいたいと感じたりすることがあります。また、気分がたかぶったり、攻撃的になり、中には他人に対して危害を加えたりすることもあります。患者やその家族の方は、このような症状をはじめ、気分がたかぶる、眠れない、不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、などの症状があらわれる可能性があることを十分に理解できるまで説明を受け、これらの症状があらわれた場合にはただちに医師に連絡してください。
- ・この薬を使用し始めた時期に発熱があらわれることがあります。高熱になることもあるので、そのような場合には電解質を含む水分補給をしてください。
- ・この薬を自分自身で注射する場合、注射方法、使用済みの注射器と注射針を再使用しないこと、使用済みの注射器と注射針の廃棄方法などについて十分理解できるまで説明を受けてください。

自分自身で注射を続けられないと感じた場合は、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

また、自分自身で注射をした時に副作用と思われる症状があらわれた場合は、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

- ・この薬を亜急性硬化性全脳炎にイノシン プラノベクスと併用して使用する場合、著しい筋緊張亢進（筋肉のこわばり、筋肉のつっぱり）があらわれることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
間質性肺炎 <small>かんしつせいはいえん</small>	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
抑うつ <small>よくうつ</small>	やる気がおきない、気分がふさぎ込む、気分が落ち込む、不眠

重大な副作用	主な自覚症状
自殺企図 じさつぎと	自殺を企てる
躁状態 そうじょうたい	眠くならない、喜怒哀楽が激しくなる、気分が高ぶる、口数が多くなる、色々な考えが浮かぶ
攻撃的行動 こうげきてきこうどう	いらいら、興奮、不安
糖尿病（1型および2型） とうによびょう（いちがたおよびにがた）	からだがだるい、体重が減る、のどの渇き、水を多く飲む、尿の量が増える
自己免疫現象によると思われる症状・徴候 じこめんえきげんしょうによるとおもわれるしょうじょう・ちようこう	<p>[甲状腺機能異常としてあらわれる場合] からだがだるい、むくみ、寒がりになる、動作やししゃべり方が遅い、汗をかきやすい、体重が減る、眼球突出、甲状腺のはれ、胸がドキドキする、手のふるえ、不眠</p> <p>[潰瘍性大腸炎としてあらわれる場合] 発熱、腹痛、下痢、便に粘液や血液が混じる</p> <p>[関節リウマチとしてあらわれる場合] 関節の痛み、朝の手のこわばり</p> <p>[1型糖尿病としてあらわれる場合] からだがだるい、体重が減る、のどの渇き、水を多く飲む、尿の量が増える</p> <p>[多発性筋炎としてあらわれる場合] からだに力が入らない、発熱、飲み込みにくい、息苦しい、筋肉の痛み</p> <p>[溶血性貧血としてあらわれる場合] からだがだるい、ふらつき、疲れやすい、立ちくらみ、めまい、頭が重い、白目が黄色くなる、動く時の動悸（どつき）や息切れ、皮膚が黄色くなる、褐色尿</p> <p>[肝炎としてあらわれる場合] からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、皮膚が黄色くなる</p> <p>[SLEとしてあらわれる場合] からだがだるい、関節の痛み、発熱、顔に蝶型の赤い斑点</p> <p>[重症筋無力症としてあらわれる場合] まぶたが重い、上まぶたが下がる、物がだぶって見える、筋肉の疲労感</p>

重大な副作用	主な自覚症状
重篤な肝障害 じゅうとくなかんしょうがい	からだがだるい、発熱、意識の低下、考えがまとまらない、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐、食欲不振、羽ばたくような手のふるえ、かゆみ、発疹、皮膚が黄色くなる、判断力の低下
急性腎障害、ネフローゼ症候群などの重篤な腎障害 きゅうせいじんしょうがい、ネフローゼしょうこうぐんなどのじゅうとくなかんしょうがい	[急性腎障害としてあらわれる場合] からだがだるい、からだのむくみ、疲れやすい、意識の低下、頭痛、眼がはれぼったい、息苦しい、尿がでない、尿量が減る [ネフローゼ症候群としてあらわれる場合] 全身の著明なむくみ、尿量が減る [重篤な腎障害としてあらわれる場合] 発熱、頭痛、顔のむくみ、口の渇き、食欲不振、手足のむくみ、尿量が減る
溶血性尿毒症症候群 ようけつせいにようどくしょうしょうこうぐん	けいれん、むくみ、発熱、貧血、意識の低下、考えがまとまらない、白目が黄色くなる、息苦しい、息切れ、紫色のあざ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、尿量が減る、しびれ、判断力の低下
汎血球減少 はんけつきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい
無顆粒球症 むかりゆうきゅうしょう	発熱、のどの痛み
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	発熱、のどの痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
貧血 ひんけつ	からだがだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、階段や坂を上る時の動悸や息切れ、息切れ
赤芽球癆 せきがきゅうろう	からだがだるい、めまい、息切れ、動悸
敗血症、肺炎などの重篤な感染症 はいけつしょう、はいえんなどのじゅうとくなかんせんしょう	[敗血症としてあらわれる場合] さむけ、ふるえを伴う急激な高熱がでる、関節の痛み、筋肉の痛み [肺炎としてあらわれる場合] 悪寒、発熱、咳、痰がでる、息切れ [重篤な感染症としてあらわれる場合] かぜのような症状、からだがだるい、発熱、嘔吐
ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
狭心症 きょうしんしょう	冷や汗、胸がしめつけられる感じ、胸が押しつぶされるような感じ、胸の痛み、胸を強く押さえつけた感じ

重大な副作用	主な自覚症状
心筋梗塞 しんきんこうそく	冷や汗、急激に胸を強く押さえつけられた感じ、狭心痛、息苦しい
心筋症 しんきんしょう	むくみ、胸の痛み、息切れ、動悸
心不全 しんふぜん	からだがだるい、全身のむくみ、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ、動く時の動悸
完全房室ブロック かんぜんぼうしつブロック	めまい、気を失う
心室頻拍 しんしつひんぱく	息切れ、動悸、脈が速くなる
消化管出血（下血、血便など） しょうかかんしゅっけつ (げけつ、けつべんなど)	血を吐く、吐き気、嘔吐、腹痛、血が混ざった便、黒色便
消化性潰瘍 しょうかせいかいよう	胸やけ、胃もたれ、背中での痛み
虚血性大腸炎 きょけつせいだいちょうえん	発熱、吐き気、嘔吐、むかむかする、急激な腹痛、下痢、血が混ざった便
脳出血 のうしゅっけつ	片側のまひ、意識の低下、考えがまとまらない、頭痛、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐、手足のまひ・しびれ、半身不随、意識を失って深く眠りこむ、判断力の低下
脳梗塞 のうこうそく	片側のまひ、意識の低下、考えがまとまらない、頭痛、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐、手足のまひ・しびれ、半身不随、意識を失って深く眠りこむ、判断力の低下
錯乱 さくらん	意識が乱れる、意識の混乱、考えがまとまらない
痙攣 けいれん	けいれん
幻覚・妄想 げんかく・もうそう	実際にはない物が見えたり聞こえたりするように感じる、根拠のない思い込み、非現実的なことを強く確信する
意識障害 いしきしょうがい	意識の低下、考えがまとまらない、判断力の低下
興奮 こうふん	興奮しやすい
見当識障害 けんとうしきしょうがい	自分のいる場所や時間、自分や人の名前などがわからなくなる
失神 しっしん	気を失う
せん妄 せんもう	意識が乱れる、意識の混乱
認知症様症状（特に高齢者） にんちしょうようしょうじょう (とくにこうれいしゃ)	覚えられない、計算ができない、時間や場所がわからない、物忘れがひどい
四肢の筋力低下 ししのきんりょくていか	手足の筋肉に力が入らない

重大な副作用	主な自覚症状
顔面神経麻痺 がんめんしんけいまひ	顔のゆがみ、顔の筋肉のまひ、涙がでにくい、しゃべりにくい、ものを食べにくい、口の中の水分がこぼれやすい、味覚が低下
末梢神経障害 まっしょうしんけいしょうがい	運動のまひ、感覚のまひ、手足のしびれ、手足の痛み
網膜症 もうまくしょう	視力の低下
難聴 なんちょう	耳が聞こえにくい、耳鳴り、声や音がきこえない
皮膚潰瘍 ひふかいよう	皮膚の潰瘍
皮膚壊死 ひふえし	皮膚の痛み、皮膚の熱感
無菌性髄膜炎* むきんせいずいまくえん	発熱、頭痛、嘔吐




* 亜急性硬化性全脳炎の人に髄腔内または脳室内に注射した場合

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、からだがだるい、体重が減る、汗をかきやすい、動作やしゃべり方が遅い、寒がりになる、むくみ、ふらつき、立ちくらみ、疲れやすい、関節の痛み、からだに力が入らない、けいれん、貧血、ふるえを伴う急激な高熱がでる、さむけ、悪寒、かぜのような症状、冷や汗、眠くならない、片側のまひ、運動のまひ、感覚のまひ
頭部	頭痛、頭が重い、めまい、意識の低下、考えがまとまらない、意識の混乱、意識が乱れる、意識がうすれる
顔面	顔に蝶型の赤い斑点、顔のむくみ、鼻血、顔の筋肉のまひ、顔のゆがみ、血の気が引く
眼	眼球突出、白目が黄色くなる、上まぶたが下がる、物がだぶって見える、まぶたが重い、眼がはれぼったい、涙がでにくい、視力の低下
耳	耳鳴り、声や音がきこえない、耳が聞こえにくい
口や喉	から咳、水を多く飲む、のどの渇き、甲状腺のはれ、嘔吐、吐き気、飲み込みにくい、口の渇き、歯ぐきの出血、のどの痛み、咳、痰がでる、血を吐く、しゃべりにくい、味覚が低下、口の中の水分がこぼれやすい、ものを食べにくい
胸部	息苦しい、胸がドキドキする、吐き気、息切れ、動悸、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、胸が押しつぶされるような感じ、胸の痛み、胸がしめつけられる感じ、胸を強く押さえつけた感じ、急激に胸を強く押さえつけられた感じ、狭心痛、胸やけ

部位	自覚症状
腹部	食欲不振、吐き気、腹痛、胃もたれ、急激な腹痛、むかむかする
背中	背中痛み
手・足	手のふるえ、朝の手のこわばり、関節の痛み、羽ばたくような手のふるえ、手足のむくみ、脈が速くなる、片側のまひ、半身不随、手足のまひ、手足のしびれ、手足の痛み、手足の筋肉に力が入らない
皮膚	むくみ、皮膚が黄色くなる、かゆみ、発疹、紫色のあざ、あおあざができる、皮下出血、皮膚の潰瘍、皮膚の熱感、皮膚の痛み
筋肉	筋肉の疲労感、筋肉の痛み
便	便に粘液や血液が混じる、下痢、血が混ざった便、黒色便
尿	尿の量が増える、褐色尿、尿量が減る、尿がでない、尿の色が濃くなる
その他	気分が落ち込む、不眠、気分がふさぎ込む、やる気がおきない、不安、自殺を企てる、いらいら、興奮、判断力の低下、しびれ、出血しやすい、出血が止まりにくい、気を失う、意識を失って深く眠りこむ、興奮しやすい、自分のいる場所や時間、自分や人の名前などがわからなくなる、色々な考えが浮かぶ、口数が多くなる、気分が高ぶる、喜怒哀楽が激しくなる、実際にはない物が見えたり聞こえたりするように感じる、根拠のない思い込み、非現実的なことを強く確信する、物忘れがひどい、時間や場所がわからない、覚えられない、計算ができない

【この薬の形は？】

販売名	スミフェロン注		
	バイアル 300 万 IU	DS300 万 IU	DS600 万 IU
内容量	1mL	1mL	1mL
性状	無色澄明の液		
形状	バイアル	シリンジ	
			

【この薬に含まれているのは？】

販売名	スミフェロン注バイアル 300 万 IU・ 注 DS300 万 IU・注 DS600 万 IU
有効成分	インターフェロン アルファ (NAMALWA)
添加物	ポリソルベート 80、トロメタモール、塩化ナトリウム、グリシン、pH 調節剤

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・凍結を避けて冷蔵庫など（10℃以下）で保管してください。光を避けてください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

- ・使用済みの注射針や注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

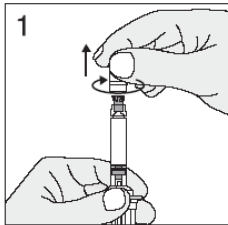
- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

- 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：大日本住友製薬株式会社 (<http://www.ds-pharma.co.jp/>)
くすり情報センター
電話番号：0120-885-736
受付時間：9時～17時30分
(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)

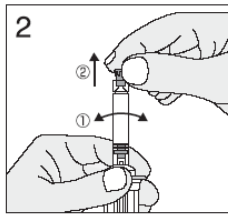
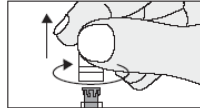
使用方法

<シリンジ製剤の使い方>

◇ 注射の準備 (注射器を取り扱う前に、手指を石けん等で洗い、清潔なタオルで水気をふきとってください。)

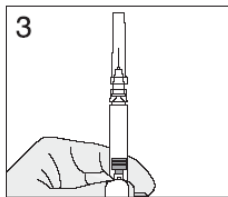


フィンガーグリップ(白色の部分)をしっかり握って固定し、先端キャップ(封かんシール付)を回して引き抜きます。
補足: 矢印の方向にねじりながら引き抜くと、シールが開封され先端キャップが外れます。

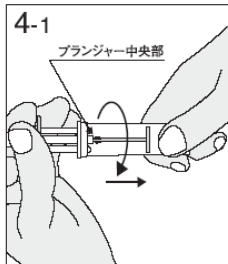


フィンガーグリップ(白い部分)をしっかり握って固定し、ゴムキャップをゆっくり前後左右にずらすようにして外してください。ゴムキャップが外しにくい場合は、専用補助具を用いて開封する方法があります。
注意: 1. ゴムキャップは衛生管理上固めに取付けられています。無理な力をかけるとシリンジ先端ごと折れてしまうことがあります。
2. ゴムキャップを取り外す際に保護カバー(透明の部分)を握ると、カバーが外れることがあります。

(注意) 3、4-1の順番を間違えないでください。

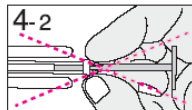


添付されている注射針をしっかり取り付けます。
注意: 1. 操作中の針の外れ、液漏れを防止するため、注射針をしっかり取り付けてください。
2. 使用後に注射針が完全に格納されないことがありますので、必ず添付の注射針を使用してください。
3. 保護カバーを付けた状態で、注射針を取り付けてください。
4. 取り付け時は、注射針をガラスシリンジの先に対してまっすぐになるように取り付けてください。

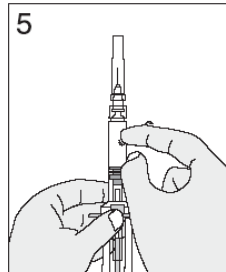


フィンガーグリップ(白色の部分)をしっかり持って、保護カバー(透明の部分)を回しながら取り外します。

注意: 投与前にプランジャー中央部の部品を変形させると、投与操作ができなくなる場合がありますので、触れないようにしてください。(下図4-2)



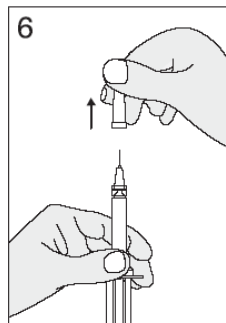
注意: 3、4-1の順番を間違えないでください。保護カバーを外した後に、注射針を取り付けるとフィンガーグリップが外れるおそれがあります。その状態で使用した場合、投与直後に投与部位から注射針を抜く前に注射針が格納され、痛みを感じる場合があります。



注射器の先を上に向け横から軽く指ではじき、空気を上に集めます。次いで、プランジャー(白色)をゆっくり押し、注射器内の空気を抜いてください。この時、針先から薬液が出ることを確認してください。

補足: 気泡が外へ出にくい場合は、これを繰り返してください。多少の気泡が残っていても問題ありません。

注意: 空気抜きを行う際はプランジャーを引かないでください。薬液が漏れることがあります。



注射針キャップをひねらずまっすぐ引き抜きます。

注射針キャップが外しにくい場合は、専用補助具を用いて取り外す方法があります。

注意: 1. 注射針キャップをひねると注射針の外れ・液漏れや注射針キャップが固くなり取り外しにくくなる場合があります。

2. シリンジ先端に負荷がかかるとシリンジ先端が折れることがあります。

3. 注射針をななかに接触させると、針の先端がつぶれ、注射時に痛みの原因となる場合がありますので、下記の点に注意してください。

• 針先がキャップ内面に当たらないようにまっすぐ上に引き抜いてください。

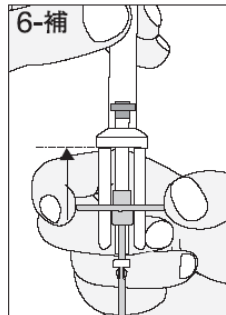
• 注射前に針先を消毒綿等で拭かないでください。

4. プランジャーに触れないように注意してください。

5. 注射針が外れた場合には、保護カバー(透明の部分)をもとの位置に取り付けた後に再度3から操作を行ってください。

6. 注射針キャップを取り外すとき、シリンジを下に押し込まないように注意してください。

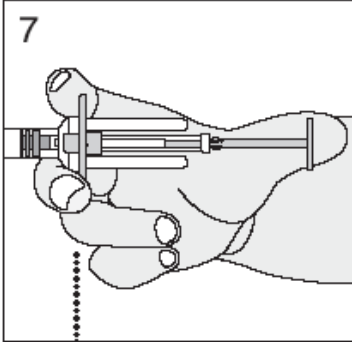
補足: シリンジが後退した場合には、左図のようにフィンガーグリップ(白色の部分)を先端方向へスライドさせてシリンジをもとの位置に戻します。カチッと音がしてフィンガーグリップが固定されます。



◇ 注射の実際

注意：針の格納操作（7から8-3まで）は片手で操作し、中断せずに連続して行ってください。
投与後に持ち替えたり、机の上に置いたりすると誤作動の原因となります。

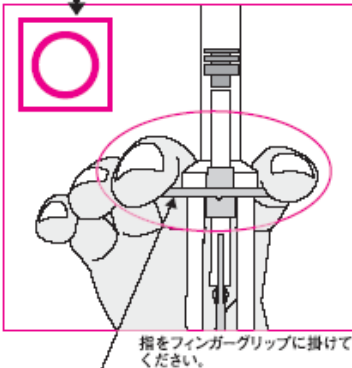
投与直前



上図のようにフィンガーグリップ（白色）とプランジャー（白色）に指をかけて投与します。注射の方法と投与回数は必ず主治医の指示に従ってください。

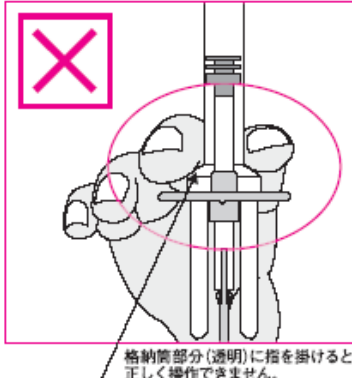
注意：格納筒部分（透明）に指をかけると、スムーズな格納操作ができません。必ず下図（良い例）の通りに指をかけて投与してください。

良い例



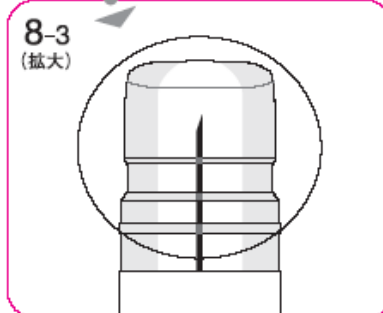
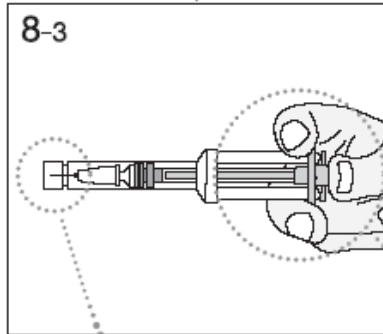
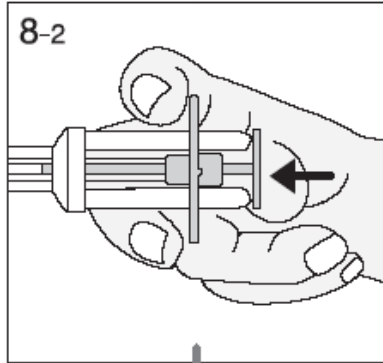
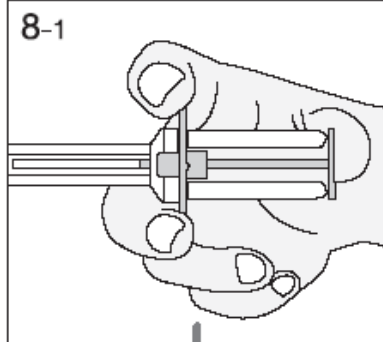
指をフィンガーグリップに掛けてください。

悪い例



格納筒部分（透明）に指を掛けると正しく操作できません。

投与直後

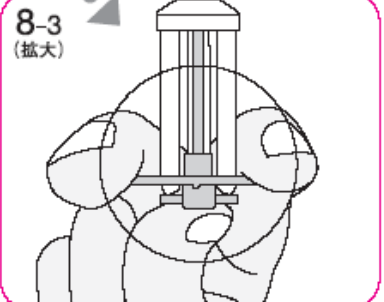


投与終了後、注射針を投与部位から外します。そしてそのまま、針先を人のいる方向に向けないように注意して、さらにプランジャーを強く押してください。フィンガーグリップ（白色）が後退して注射針が格納筒（透明）に引き込まれます。

注意：1. 投与終了後にプランジャーを引き戻さないでください。
2. プランジャーを押し込む時に注射針が外れる場合がありますので、針先を人のいる方向に向けしないでください。
3. シリンジ内に空気が入っていると、注射針が外れやすくなりますので、そのような場合には、ゆっくりとシリンジを押し、空気を抜いてからプランジャーを押し込んでください。
4. 格納時に針先から薬液が漏れることがあります。使用済の針先から漏れ出した薬液から、ウイルスや細菌の感染につながるおそれがありますので、注意してください。

注射針が格納筒（透明）に完全に引き込まれ、カチッと音がするまでプランジャー（白色）を強く押してください。カチッと音がすると注射針が固定されて格納操作は終了します。

注意：1. カチッと音がするまでプランジャーを押し込まない場合、注射針が再度露出する危険があります。
2. 投与終了後に注射針キャップは再び装着しないでください。
3. 左下図のように、注射針が格納筒（透明）に完全に引き込まれていることを目視で確認し、その後注射針の周りに指を触れないように注意して速やかに廃棄してください。



<バイアル製剤の使い方>

新しい注射器と注射針を用意します。



1

冷蔵庫から薬剤のバイアルを1本取り出します。
手指を石けん等で洗い、清潔なタオル等で水気を拭き取ってください。



2

薬剤のバイアルのプラスチック・キャップを取りはずし、ゴム栓の部分を消毒用アルコール綿で拭き、消毒します。



3

注射器を包装袋より取り出します。
なお、使用中以外は必ず保護キャップを付けておいてください。



針の保護キャップをはずし、バイアルのゴム栓の部分に注射器の針を刺します。



注射器の針を刺したままバイアルをさかさまにして、薬剤を注射器にゆっくり吸い取ります。この際、注射器内に空気が入らないように、針の先端は常に液の中にあるようにしてください。

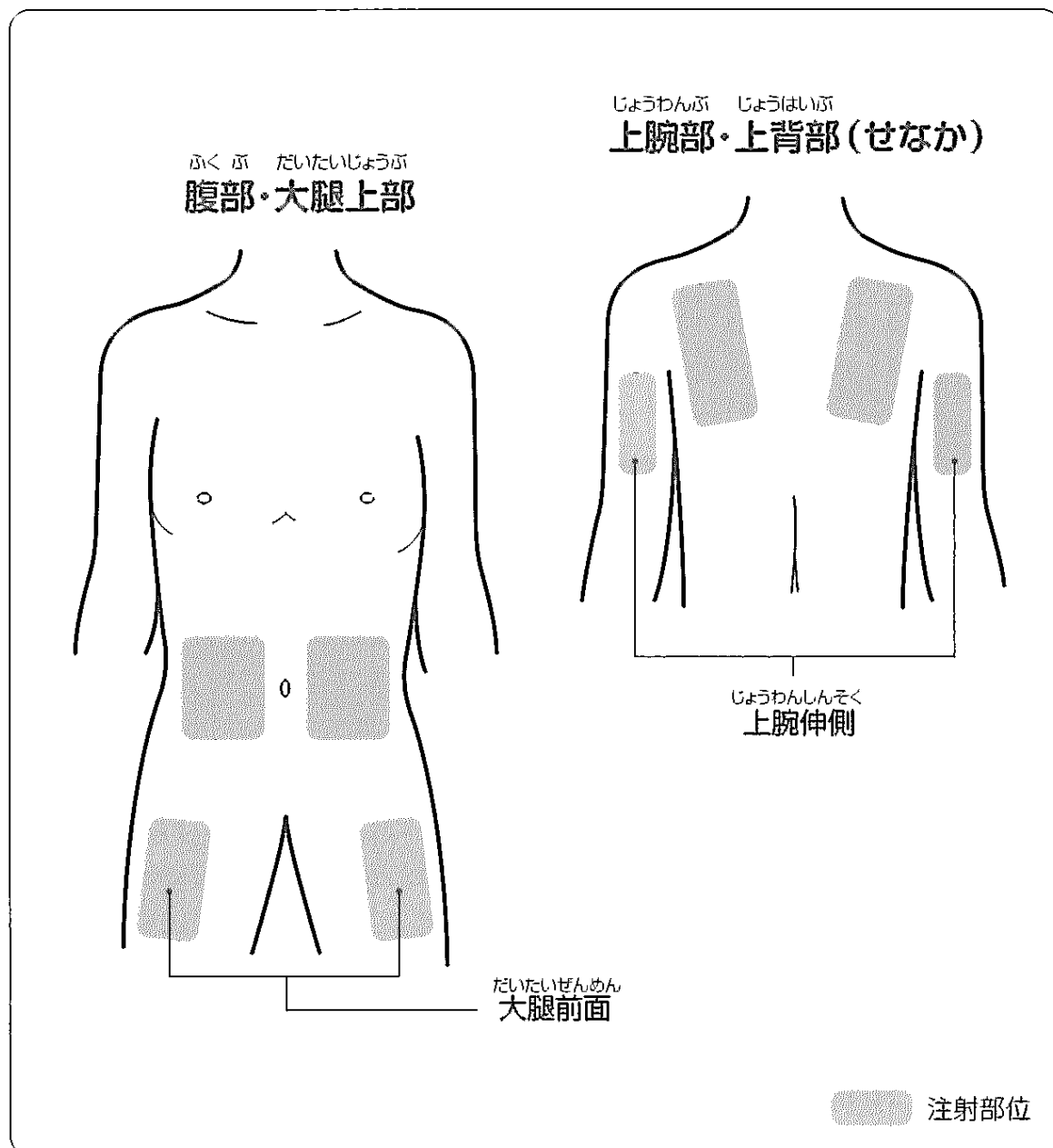
注意：薬剤を吸い取っている時は、バイアル内が陰圧になるため注射器の押棒（プランジャー）を放さないでください。薬剤が逆流するおそれがあります。



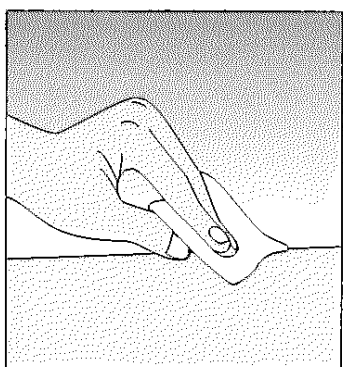
注射器内に空気が入ってしまった場合には、まず注射器の先を上に向け横から軽く指ではじき、内筒（注射器の内側の筒）をゆっくりと押して、泡を注射器内から外へ押し出します。泡が外へ出にくい場合には、これを繰り返して泡を取り除いてください。

<皮下への注射部位>

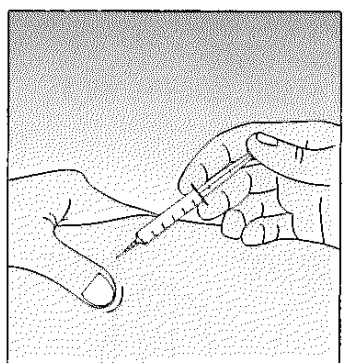
- ・神経、血管が少なく、皮膚表面の近いところで骨がない場所。
- ・一般に腹部、大腿前面がよく用いられます。
- ・家族の方が行う場合には背中や肩も用いられます。
- ・同一部位へ繰り返して注射しないようにしてください。



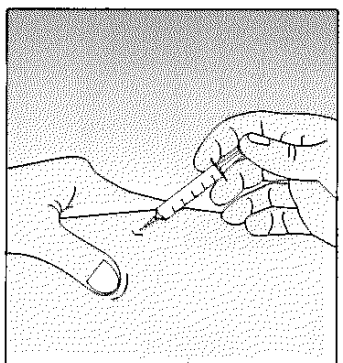
<皮下への注射方法>



1. 注射する場所を消毒用アルコール綿で広く拭きます。



2. 注射部位のまわりの皮膚を親指と人差し指でつまみます。注射器を、この部位に皮膚面と約 30°～45° の角度で素早く針をさします。



3. 注射器を少し引いて、血液が逆流しないことを確認し、ゆっくり注射液を注入します。

4. 注射し終わったら、針を引き抜き、注射した場所を消毒用アルコール綿で軽くおさえ、次いで軽くマッサージをします。

<筋肉内への注射部位>

- ・筋層が厚く、大血管や神経の少ない部位を選びます。
- ・同一部位へ繰り返して注射しないようにしてください。

じょうわんぶ
上腕部

肩の外側面の丸みをもっている部分、
さんかくきん
三角筋に行います。

さんかくきん
三角筋

だいたいじょうぶ
大腿上部 (ふともも)

だいたいちよくきん がいそくこうきん
大腿直筋、外側広筋に行います。

がいそくこうきん
外側広筋

左ひざ 右ひざ

だいたいぶ
大腿部の
中央1/3
の部分

だいたいちよくきん
大腿直筋

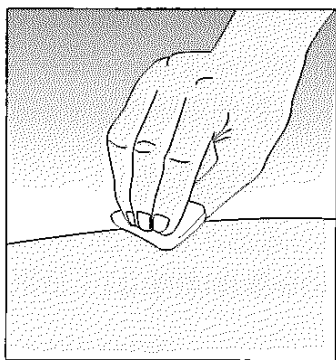
でんぶ
臀部

ざこつしんけい
坐骨神経を避けるため、
でんぶ
臀部を4分割し、
その上外側の1/4区域、
ちゅうでんきん
中臀筋に行います。

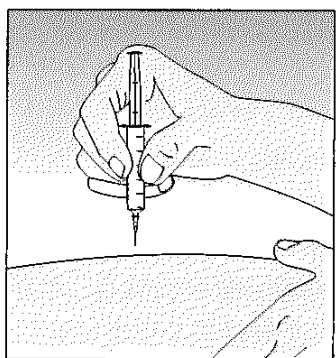
ちゅうでんきん
中臀筋

注射部位

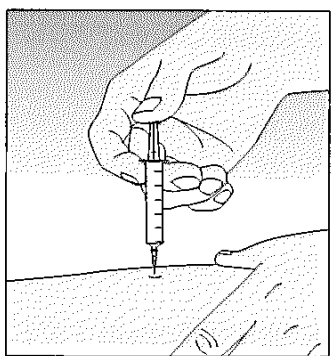
<筋肉内への注射方法>



1. 注射する場所を消毒用アルコール綿で広く拭きます。



2. 注射部位のまわりの皮膚を一方の手で引っばるように緊張させます。



3. 注射器はペンを持つように保持し、皮膚面に直角に素早く針をさします。

4. 注射器を少し引いて、血液の逆流のないことを確認し、静かに押して注射液を注入します。

5. 注射し終わったら、注射器をしっかり持って針をひき抜き、注射した場所を再び消毒用アルコール綿でおさえ、軽くマッサージをします。